特集 2

新社会人——最初の100日の過ごし方

社会人1年目は二度と来ない。この時期に学んだことは、長い人生の土台になるだろう。それぞれのキャリアを積み上げてきた先輩たちは、どんな心構えで新人時代を送ったのか？ 分野の異なる3名にお聞きした。

取材・文 上阪 徹　撮影 後藤さくら

うえさか・とおる　ブックライター。1966年兵庫県生まれ。89年早稲田大学商学部卒業。ワールド、リクルート・グループなどを経て、94年フリーランスに。近著は『なぜ彼は日本一の成功者になったのか　松下幸之助　世界でいちばん「しあわせ」を売った男』(実務教育出版)。

ごとう・さくら　女性誌やビジネス誌などで主に人物撮影、大学など教育関連系の撮影のほか、つくば市にて家族写真スタジオを主宰する。

「最初の100日」とは……

米大統領フランクリン・ルーズベルトが、就任後の100日間で目覚ましい業績を成し遂げた際、それを讃えるのに使われた言葉である。転じて、今では新任の社長、幹部などが「最初の100日」でスタートダッシュを決めることの重要性を示す言葉になっている。

『理念と経営』公式YouTubeにてインタビュー動画を公開中！